平成２９年１０月２４日
石川県健民運動推進本部
（ 県 民 交 流 課 内 ）
076-225-1366(内線 3894)
下　沢

「ふるさとのツバメ総調査作品コンクール（記録・観察作品の部）、（感想文の部）、（ツバメのお宿シールの部）」の被表彰者決定について

１　募集概要

ふるさとのツバメ総調査作品コンクール

○「記録・観察作品の部」、「感想文の部」

ふるさとの環境を見つめ、自然を愛護する心を育み、生き物への関心を高める機会となることをねらいとして実施しているツバメ調査について、写真、ツバメ新聞などの「記録・観察作品」、心に残ったことや理解したことの「感想文」を募集した。

○「ツバメのお宿シールの部」

ツバメの巣がある場所に貼ることで、次年度以降の目印として活用する「ツバメのお宿シール」の原画を募集した。

採用した作品は来年の調査時に使用するシールの原画となる。

２　作品募集期間

平成２９年５月１７日～７月１４日

３　応募総数

ふるさとのツバメ総調査作品コンクール

・記録・観察作品の部	１２校		（前年１２校）
・感想文の部	３３校	９３６点	（前年３０校　５３２点）
・ツバメのお宿シールの部	１５９校	１，９７２点	（前年１４９校 １，６１５点）

４　被 表 彰 者

別紙のとおり

５　表　彰　式

日　　時　　平成２９年１２月１７日（日）　午前１１時～１２時

場　　所　　県庁行政庁舎　１９階　展望ロビー

６　展　示　会　　「ふるさとのツバメ総調査パネル展」を下記のとおり開催する。

日　　時　　平成２９年１２月１６日（土）～２８日（木）
午前１０時～午後８時

場　　所　　県庁１９階展望ロビー

展示内容　　入選作品を展示

７　そ　の　他　　来年度に使用される「ツバメのお宿シール」は１２月上旬を目途に作成する予定

＜参考＞　第４６回（平成２９年）ふるさとのツバメ総調査について

５月の愛鳥週間(５月１０日～１６日)に県内全公立小学校２０８校の６年生を中心とする、１１，１１０人の児童がツバメ調査を行った。

４６年間にわたって全県でツバメを調査しているのは石川県のみ。

別紙

ふるさとのツバメ総調査作品コンクール受賞者一覧

記録・観察作品の部

1	最優秀賞	金沢市立田上小学校	ツバメ調査のポスターとツバメ新聞
2	優秀賞	加賀市立山代小学校	ツバメ調査のポスターとツバメ新聞
3	優秀賞	能登町立松波小学校	ツバメ新聞
4	佳作	小松市立日末小学校	ツバメ新聞

感想文の部

1	最優秀賞	加賀市立山代小学校	6年	西(ニシ) 明佳音(アカネ)
2	優秀賞	金沢市立泉野小学校	6年	櫻井(サクライ) 遥(ハルカ)
3	優秀賞	金沢市立田上小学校	6年	疋津(ヒキズ) 更紗(サラサ)
4	佳　作	金沢市立田上小学校	6年	菊間(キクマ) 優花(ユウカ)
5	佳　作	金沢市立田上小学校	6年	土本(ツチモト) 怜奈(レナ)
6	佳　作	内灘町立大根布小学校	6年	畑(ハタ) 莉々果(リリカ)
7	佳　作	能登町立宇出津小学校	6年	宮藤(ミヤフジ) 凜久(リク)

ツバメのお宿シールの部

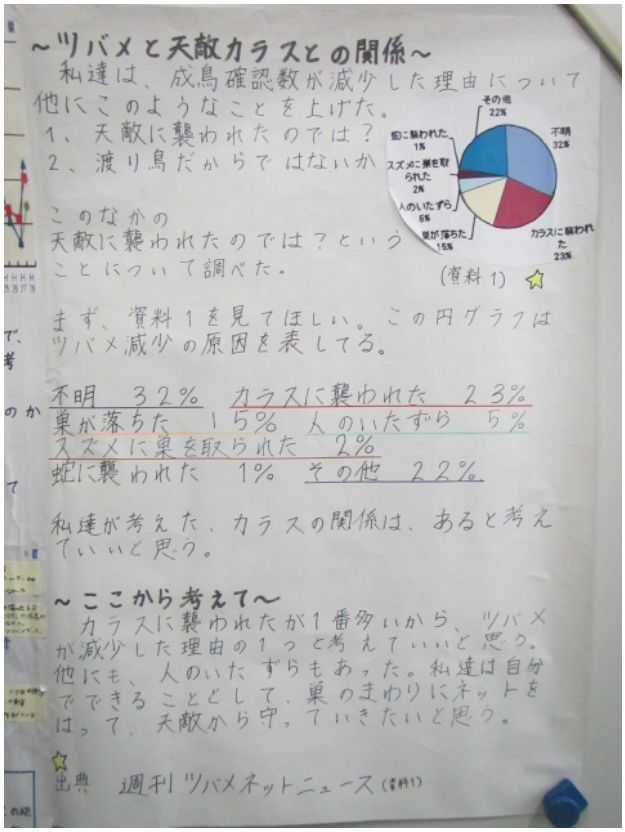
※第47回（平成30年）に使用する

1	最優秀賞	金沢市立新神田小学校	6年	吉田(ヨシダ) 衣織(イオリ)
2	優秀賞	金沢市立三谷小学校	6年	丹野(タンノ) 真央(マオ)
3	優秀賞	小松市立芦城小学校	6年	鳥巣(トリス) 綺月(キラリ)
4	佳　作	金沢市立新神田小学校	6年	原﨑(ハラサキ) 咲来(サラ)
5	佳　作	七尾市立田鶴浜小学校	6年	木田(キダ) 渚子(ナギサコ)
6	佳　作	小松市立矢田野小学校	6年	宮本(ミヤモト) 淳美(アツミ)
7	佳　作	珠洲市立宝立小中学校	3年	大畠(オバタケ) 梨紗子(リサコ)
8	佳　作	白山市立松任小学校	6年	平田(ヒラタ) 愛佳(アイカ)
9	佳　作	白山市立松任小学校	6年	本谷(モトヤ) 佳乃子(カノコ)

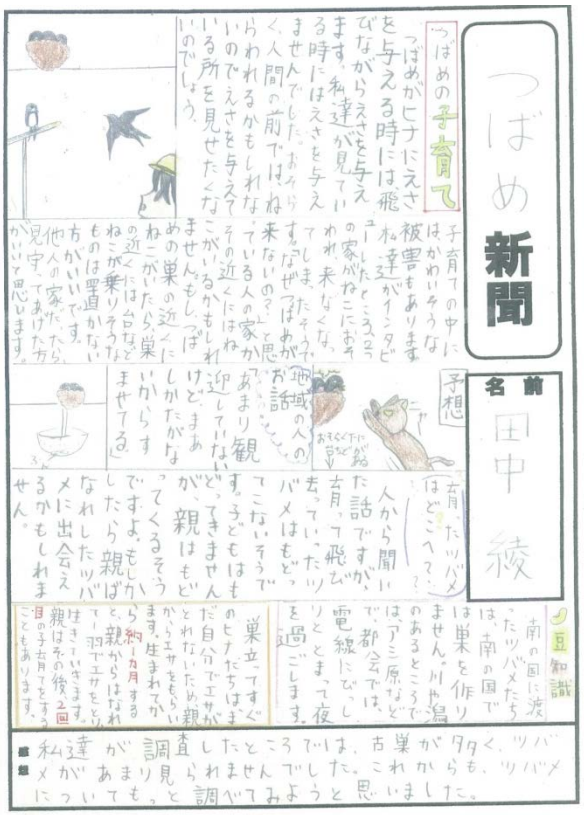
第４６回ふるさとのツバメ総調査作品コンクール入賞作品一覧

１　記録・観察作品の部

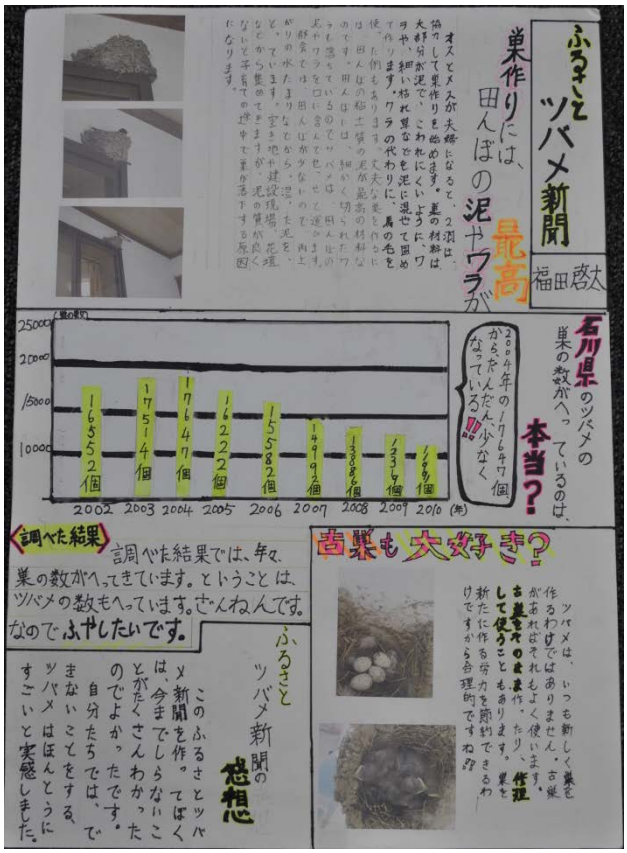
最優秀賞　金沢市立田上小学校（ツバメ調査のポスターとツバメ新聞）

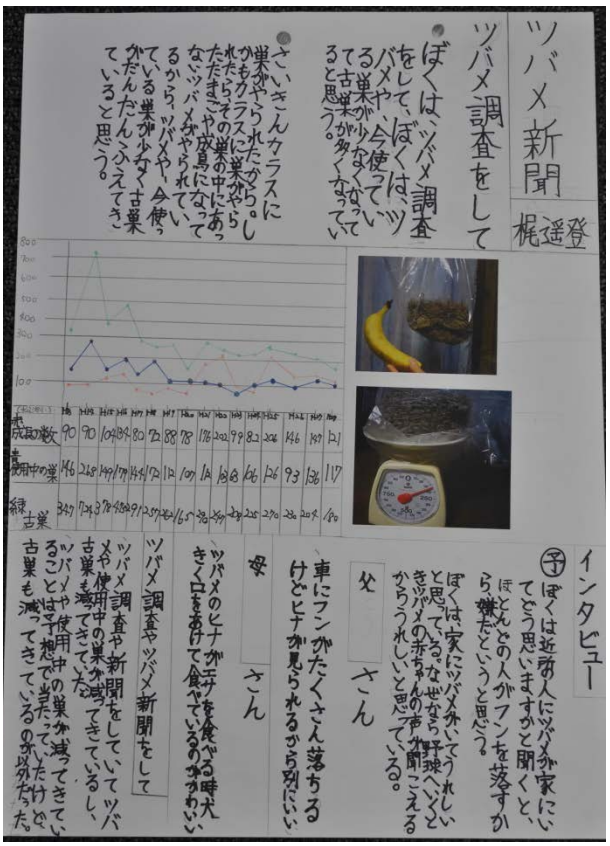


優秀賞　加賀市立山代小学校（ツバメ調査のポスターとツバメ新聞）

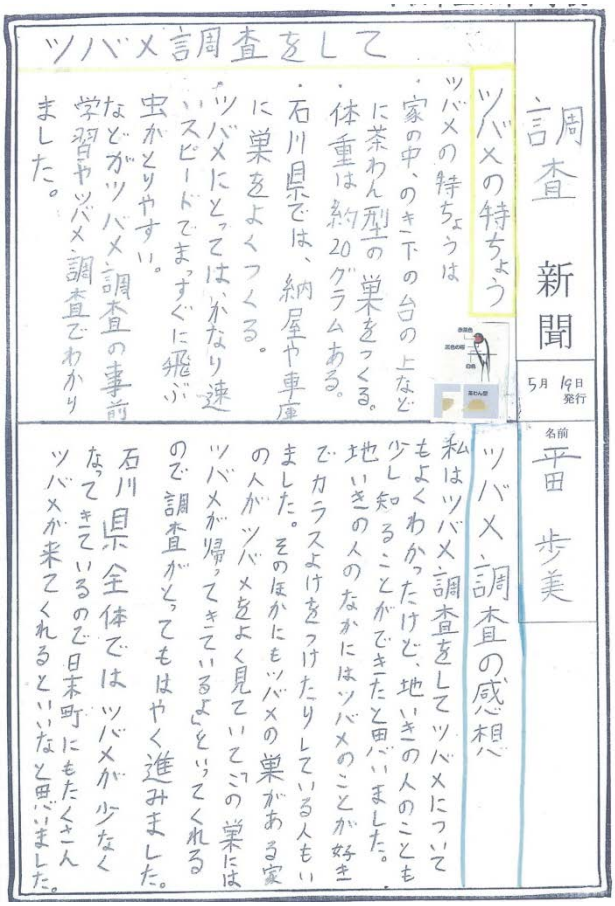


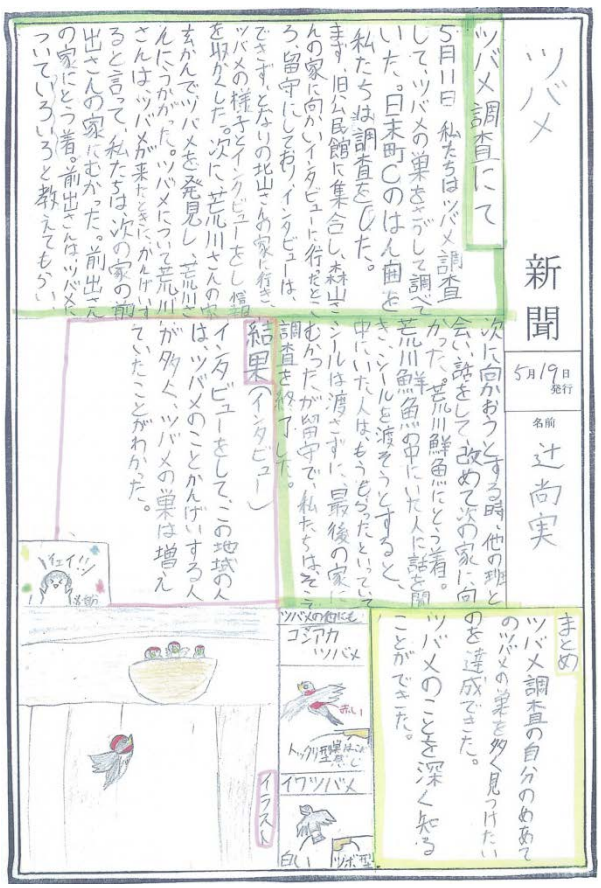
優秀賞　能登町立松波小学校（ツバメ新聞）





佳　作　小松市立日末小学校（ツバメ新聞）





２　感想文の部

最優秀賞　１点

やさしさに支えられているツバメたち

加賀市立山代小学校　６年　西 明佳音

私はツバメ調査をして、町の人の優しさ、そしてその優しさにツバメは支えられていることを知ることができました。

調査した巣のある家の人に話をうかがうと、巣が落ちないようにフックを付けたり、カラスに食べられないようにネットを張ったりする工夫をしていると聞きました。手間をかけてもツバメを守ろうとしているその人はとても優しいなと思いました。

他の家では、ツバメがびっくりしないように家を出入りする時には静かにしている人もいました。ツバメのことを考えながら生活しているその人も優しい人だなと思いました。

自動車屋の人は、ヒナが全てヘビに食べられてしまった時のことを話してくださいました。その話をしてくれている時のその人の表情や声は、とても悲しそうでした。だから食べられてしまった時はとても悲しかったのだと思います。だからツバメのことが大好きで、守ろうとしてくれるいい人だなと思いました。

私はツバメ調査で、町の人はツバメのことが大好きで、優しい人たちなんだなと思いました。そして、私の町を元気よく飛び回っているツバメたちは、町の人たちの優しさに支えられながら生きているんだなと思いました。私もツバメに優しくして、ツバメを支えられたらいいなと思いました。

優秀賞　２点

天秤にかけると…

金沢市立泉野小学校　６年　櫻井 遥

先日、学校の活動としてツバメ調査をしました。私たちの担当した場所には古巣が1つしかありませんでした。しかし、母が３０年前に調査したときは巣が５つあったそうです。私は約３０年の間になぜこのような変化が起こったのか不思議に思いました。そこでこの事について社会の豊かさの「死角」に環境問題があるのではと考えついたのです。

けれども、社会や世界の国々が環境問題に全く取り組んでいないとは思いません。実際に日本には環境省があり、対策を練っています。また昨年パリでは「COP21」会議が開かれ、世界の平均上昇温度を2.0度以下に抑えるという内容の協定も結ばれ、ニュースでも大きく取り上げられました。しかし環境問題はそのような遠いところにあるでしょうか。私は違うと思います。もっと身近なところにあるべきです。

私の住んでいる町は、交通の便もよく便利な町です。しかしツバメもいなければホタルもいません。緑も非常に少ないです。社会が豊かになり、母の時代と比べてとても便利な時代になりました。その代わりに野生生物がほとんどいなくなりました。本当にこれは良い町なのでしょうか。

人は昔から自然と共存してきました。けれども今そのバランスはちゃんととれているのでしょうか。今、未来を背負う私たちが真剣にこの事について考えなければいけないと思いま

す。便利な世の中と自然。これらを天秤にかけて、つり合いのとれる社会にしていかないといけないと痛感しました。

ツバメ調査があったから

金沢市立田上小学校　６年　疋津　更紗

私にはお姉ちゃんがいます。お姉ちゃんは、６年生の時、ツバメ調査を行っていました。でもお姉ちゃんのグループは、使用中の巣が一つもなく、使われていない巣は一つだけあったそうです。その時４年生だった私は、ツバメ調査って何をするのだろうと思ったり、なんでツバメの巣を探しているのだろうとたくさんの疑問がありました。

ついに今年、私たちがツバメ調査を行う年がやって来ました。私は４年生の時に浮かんだ疑問等がたくさんあり、少し不安でした。けれど、楽しみな気持ちもたくさんありました。それは、クラスでツバメについての学習をしたり、ツバメの学習会でツバメのことをもっと詳しく調べたいと思ったり、実際にツバメの巣を見て見たいと思ったりしたからです。

でも、子どもたちだけで、ツバメの巣があるお家を訪ねたり、インタビューをするということからも、不安な気持ちになりました。

そして当日、４人でツバメ調査を行いました。ツバメ調査を行っていると、毎年たくさんツバメが来て巣をつくっていくというお家の人が、「ツバメ調査ですか。こっちへおいで。」と言って、倉庫を開けてくれました。するとそこには、今年の巣や、今年の巣ではない今までの巣などが、１０個以上ありました。そして、窓が開いていて、ツバメの天敵であるカラスが入らないようにツバメの体の大きさに合わせた出入り口が作ってあり、私は、とってもお家の人の優しさを感じました。私は、倉庫の中の壁や床がフンで汚れていて、大丈夫なのかなぁと思ったので、「ツバメがここに巣を作ることをどう思いますか。」と尋ねました。すると、お家の人が、「毎年、ツバメが巣を作ることが毎年の楽しみで、倉庫が汚れるけど、ツバメが来なかったら、さびしくなります。」と言っていました。町の人の温かな優しさを感じ、ツバメは町の人に、とても愛されていることが分かりました。私はツバメの学習やツバメ調査を行う前までは、ツバメは他の鳥とどこが違うのか、町の人の思いを全く知らなかったけど、このツバメ調査があったおかげで、町の人の優しさや、ツバメの大切さを感じ、この町に住んでいてよかったと感じました。これからも、ツバメの数が増え、私たちが大人になっても、ツバメ調査をおこなってもらい、いろいろな世代の人にもツバメの魅力や、町の人の優しさを知ってもらいたいです。ツバメ調査やツバメについての学習をしてとても良かったと思っています。

佳　作　４点

ツバメと私たちが仲良く共存するには

金沢市立田上小学校　６年　菊間　優花

「今はないけれど、もし自分の家にツバメが巣を作ったら、追い払ったりしないで、ヒナが巣立つまで、あたたかく見守りたい。」ツバメを歓迎しますか、という率直な質問にこう

答えてくれた人がいる。なんてやさしい人なんだ。と思った。ツバメはフンをするからイヤだ、という人もいた。「掃除すればいいじゃん。」そう思った。ツバメの平均寿命は１年。１年だって生きられないツバメもいる。４５００㎞もの道のりを必死で飛んできたのに、やっと巣を見つけたのに、やっと子育てができると思ったのに。。。　歓迎されなかったツバメは、どんな思いなのであろう。たくさんのことは考えられなくても、つらいことに変わりはないだろう。
とても短い小さな小さな命。それでも力強く飛んでいる。決してあきらめない。そんなツバメを私たちはやさしく温かく見守ってあげるべきだと思う。ツバメと私たちが仲良く共存するには、そんな、ツバメに対するあたたかい気持ちを持つことが大切だと思う。
私も、そんな気持ちをもって、今年誕生するツバメたちと一緒に成長していきたい。

ツバメ調査で学んだこと

金沢市立田上小学校　６年　土本　怜奈

私は、今回初めてのツバメ調査をしました。ツバメ調査では、学んだことが３つあります。
１つは、地域の人やツバメの工夫です。地域の人で、ツバメがいる家は、ツバメの巣が落ちても壊れないためにビニール傘を納屋の柱にかけている人やビニールシートをひいている人もいました。私は、ここから地域の人がツバメのためにいろいろな工夫をしてツバメを迎えていることが分かり、地域の人の温かさを感じました。「ツバメがいる家は安全な家」だと地域の人が話してくださいました。
２つは、ツバメと環境です。やはり、環境が悪いとツバメにもよくありませんし、カラスがたくさんいる町だとツバメは住みにくいです。
３つは、地域の人とツバメの問題点です。私が、地域の人に「ツバメを歓迎するか」調査すると、ツバメを歓迎する人はたくさんいました。でも、もし、ツバメが家に来るとなると、ツバメのフンが車にかかって汚いや、ツバメの巣がカラスに壊されるのが嫌だという意見でツバメを歓迎するかどうかを悩む人が半分以上でした。私はそんな人たちのためにツバメのフンが車にかからないようにビニールシートをひいたりすればいいと思います。カラスに壊されないようにするには、納屋の場合、シャッターや戸がツバメが入れて、カラスが入れない程度に開けておけばいいと思います。納屋じゃない場合は、巣の周りに小さな屋根をつければ問題も解決でき、地域の人もツバメを受け入れツバメは、家に巣を作りやすくなると思います。
このように、ツバメ調査をしてみて、地域の人やツバメの工夫、ツバメと環境。地域の人とツバメの問題点などが分かりました。私は、問題点を解決していくとツバメが巣を作りやすくなり、町にツバメがたくさん増えて、ツバメにやさしい町になると思います。

命の大切さを学んだツバメ調査

内灘町立大根布小学校　６年　畑 莉々果

私は今日のツバメ調査で命の大切さを学びました。命の大切さを学んだと思う理由は２つあります。
1つ目は、ツバメのヒナが死んでしまっていた事です。傷跡があるヒナや、頭だけしかな

いヒナを何羽か見かけました。ツバメの約80％は産まれてからだいたい半年で死んでしまう事を私は図鑑で知りました。道や車の上に落ちていたツバメはまだとても小さくて、とても悲しくなりました。

2つ目は、ツバメの巣があった家の人が「ツバメはよく猫に襲われる。」と言っていたからです。その家の人はとても残念そうでした。だから私は、ツバメはとても大事にされているんだと感じました。それなのにツバメの数が減ってきているのはとても残念です。

この2つの理由から私は命の大切さを学びました。私の家にはツバメの巣はないけれど、私はツバメを歓迎します。理由はツバメがいることで嬉しい人がいるからです。調査をした家の人は歓迎すると言う人が多かったです。私はツバメを守るための活動をしたいです。

身近な鳥、ツバメ

能登町立宇出津小学校　６年　宮藤 凜久

今年もツバメ調査をしました。するとツバメの数がとても減っていました。「去年はもっといっぱいいたし、一昨年は去年よりも多かった。あんなにいっぱいいたのにどうしてだろう。」とすごくショックでした。

ツバメ調査のことを家で話したら、母に「お母さんの友達の家でツバメがいっぱいいる家があるんだけど一回見に行く？」と言われたので、土曜日に見に行くことにしました。その人は本合さんという人でクリーニング屋さんでした。クリーニングの仕事で忙しそうでした。ツバメは人がいるところに巣を作るというけれどまさにその通りだなと思いました。

「見ていらし。」と言われて上がってみると、２階の部屋の大きな電気の傘の上に全部覆いつくすようにツバメの巣がありました。その時は１羽もいなかったのですが、写真をみせてもらうとヒナが７羽もいました。親鳥もヒナも朝方揃って出て行って、夕方６時過ぎに帰って来るそうです。そのツバメたちが巣立ってあばれ祭りの時期になると、違うツバメが入れ替わりにやって来るそうです。動画も見せてもらいました。２階のベランダの柵にツバメがとまっているのですが、家の人が近付いても全く逃げません。慣れている様子でとても可愛らしいなと思いました。

ツバメは１０年前から来ているそうです。本合さんはツバメのために寒くてもずっと窓を開けているそうです。そういう優しい人の家だからツバメも安心して巣作りをしているのだなと思いました。

ぼくは調査の前の学習会で、ツバメが時速200㎞の速さで飛ぶことや、マレーシア辺りかと思ったらフィリピンやオーストラリア北部まで渡っていくということを知りました。「どれだけ体力があるんだ！」と思います。この小さなツバメたちがこれからも能登町にたくさん来てほしいと思います。

平成30年度使用「ツバメのお宿シール」原画作品　入賞作品

最優秀賞（H30年度のシール）

金沢市立新神田小学校
6年　吉田　衣織

優秀賞（2点）

金沢市立三谷小学校
6年　　丹野　真央

小松市立芦城小学校
6年　　鳥巣　綺月

佳　作（6点）

金沢市立新神田小学校
6年　原﨑　咲来

七尾市立田鶴浜小学校
6年　　木田　渚子

小松市立矢田野小学校
6年　　宮本　淳美

珠洲市立宝立小中学校
3年　　大畠　梨紗子

白山市立松任小学校
6年　　平田　愛佳

白山市立松任小学校
6年　　本谷　佳乃子